



よき未来を考える学習会～貧困と難民の課題～ 1.13

国連難民高等弁務官事務所のヨルダン事務局に勤務されている進藤弘騎（しんどうこうき）氏の講演があり、中東のヨルダン、国連難民高等弁務官事務所など、日本人にあまり身近でない地域の貧困問題、難民問題についてお話をいただきました。ヨルダンの進藤氏と Zoom でつなぎ、生徒は自分たちの教室で視聴しました。

世界的に SDGs への取組が広がっており、本校も生徒会を中心に自分たちができるところを探しているところです。今回の講話で、自分たちが考える貧困と世界の貧困の違い、日本にはあまり馴染みのない難民問題について考えることができました。自分たちのやるべき取組が見えてくるといいですね。



～生徒感想より～

- 私は日本にも他の国にも難民がたくさんいると思っていました。でも、日本の難民と進藤さんが訪れた国の難民の方たちでは全くレベルが違ったことに驚きました。・・・1日にわずか200円、年間8万円しか使っていないと聞いて難民の方たちは本当に極限でギリギリの中生活しているんだと分かりました。
- 日本の難民受け入れがとても悪いことにはすごく問題を感じました。
- 第二次世界大戦後も世界各地で戦争や紛争があるのは知っていたけど、そのことで起こる問題はあまり知らなかったのでリアルな話が聞けて良かったです。
- 私が特に心がギュッとなったことがあります。それは、私と同世代の子がもう結婚して売られているという現状です。
- 世界には同じ年ぐらいの女の子が売られるような国があると思うととても恐ろしいです。・・・日本に生まれたことがどれだけ恵まれ幸せなことなのか、改めて実感しました。SDGs など、少しでも世界の役に立つような活動ができたらいいなと思いました。

実力テスト(1.2年) 学力診断テスト(3年) 1.12～13

先週はテストウイークでした。

3年生は入試を想定したテストで、いよいよ入試突入です。

大学入学共通テストが15日、16日にありましたが、この時期は全ての入試が集中する時期です。

1, 2年生の実力テストは、この1年間の学習成果を図るためのテストです。例年、入学後の1年間でかなり成長する細野中生です。1年間の学びがどこまで定着しているか楽しみです。



2年B組の木場勇心さんの「新年の抱負」を紹介します。

僕は今年チャレンジする年にしたいと思っています。理由としては、控えめな自分の性格を変えたいのと、冬休み後の集会で、校長先生の見せてくださった高校の先生からとったアンケートでチャレンジ精神という言葉があったからです。これならすぐに実践できると思い、日頃の地域の方々へのあいさつから始め、最初の小さなことから次第には大きなことへチャレンジできるようになるため、チャレンジ精神を忘れずに頑張っていきたいです。

チャレンジすることは勇気がいることですが、心持ち一つで必ず実行できます。また、実行することで大きな成長につながります。チャレンジ精神を応援する先輩方の記事がありましたので紹介します。

大阪府を中心に眼鏡店を幅広く店舗展開するビジョンメガネの経営立て直しに当たった安東晃一（あんどこういち）氏と人気の駅弁「峠の釜めし」で知られる荻野屋の過剰投資による再建に尽力された社長の高見澤志和（たかみざわゆきかず）氏の対談記事（一部抜粋）です。

やってみなくては何も掴む(つかむ)ことはできない

致知 2022

安東 私はこれまで「やらずに悔やむよりも、やってみて悔やむ」という言葉を実践してきました。何か著名人の言葉のように聞こえるかもしれませんが、これは私が子供の頃大好きだった漫画『キャプテン翼』に出てきたあるキャラクターのセリフなんです（笑）。

この言葉は入社した時からずっと大切にしていま思うとクジ引きで子会社の社長になり、倒産した会社の経営を引き受けたのも結果的によかったと思っています。万一、失敗していたとしても、もしあの時逃げていたら必ず後悔したことでしょう。

私は思うんです。貧乏クジを引いたり、嫌な役回りが巡ってくるのが人生にはあります。しかし、その人だったらできるからこそ、それが巡ってくるのではないかと。その信念があったから一步を踏み出せたのではないかと思います。

高見澤 いまのお話、私も全く同感です。私は自分なりの言葉で「チャレンジ、チャンス、チェンジ」と言っています。何事もやってみなくては結果は出ませんし、やることによってチャンスが巡って状況も変化していく。

やらずに後悔したくないという思いは安東さんと同じで、もし駄目だったらすぐにやめたらいいという気持ちで私はやっているんです。うまくいけばそれでいいし、うまくいなくてもそこから何かを掴み（つかみ）取ったらいい。

小林市の細野中（川島正寛校長、131人）伝統の「新春根性行進」は9日、同校を発着する約12キロのコースであった。生徒119人が参加し、体力と気力を養い、絆も強めた。

40年以上前から続く

行事で、生徒らは道路脇のゴミを拾い集めながら、同市の菅原神社や霧島神社などを回る行程を約3時間半で踏破。ゴール後は、保護者らが振る舞う豚汁で温まった。

3年の町浦瑛哉さん（15）は「膝や足の裏が痛くなったけど、みんなと話しながら楽しかった。コロナで修学旅行に行けなかった分まで、いい思い出ができた」と笑顔で話した。

（海老原 啓）

しきり
しま

細野中で「根性行進」 小林



伝統の「新春根性行進」に挑む細野中生ら

宮崎日日新聞 2022.1.16